

彦根市内の不審者出没が今年度だけで44件

場外券売場を設置すれば更に深刻化？

登下校時の児童に被害続出

彦根市教育委員会は、市内で不審者が出没し登下校時の児童や学生が被害にあう事件が後を絶たないため、市民に対し「登下校時刻に合わせた『見守り声かけ活動』をお願いします」と呼びかけています。

市教委の発表によれば、昨年4月から今年1月11日までの不審者出没事件は44件で、そのうち小学生、中学生、高校生の被害が42件と大半を占めています。

また発生時間帯は早朝、登校時、下校時、放課後が38件もあります。

さらに発生場所は殆んどが路上で34件、内容は痴漢行為、声かけ、つけねらい等、地域は市内全域にわたっています。

最近、全国で子供を巻き込んだ事件が多く発生していますが、彦根市内も非常に危険な状態といえます。



ギャンブルは青少年に悪影響

立川競輪場周辺でのアンケート調査によれば「公営ギャンブル施設が近くにあることで地域の風格が上ったと思いますか」との質問に対し、一般家庭の82%が「そう思わない」と答え、「そう思う」はわずか3%でした。（平成12年6月調査）

（株）トランスワードは平成16年5月24日付で中島前市長宛に確約書を出し、青少年問題について、「周辺ならびに場内の青少年問題対策については、地域との活動を密にし、指導の徹底を図ります。（取締り、監視、広報、啓発、周辺対策協議会の設置等）」との確約をしています。

「そう思わない」理由を尋ねると「子供や女性にチョッカイを出して危ないところを何度も目撃する。非常に環境が悪い。興行がある日は女性も子供も外に出せないほどだ。競輪場に訴えても全く取り合ってくれない。」「子供の教育上良くない」「下校途中の小学生が競輪にきた人からかわれたりすることがあり、教育環境上あまり良くない」など、風紀、治安、交通環境の悪化などと共に教育環境に悪影響が著しいと訴えています。

このことは（株）トランスワードが青少年問題で取締り、監視をしなければならないほどの事態になると想定していることを証明するものです。

こうした立川競輪場周辺の例を見るまでもなく、原町に競輪、競艇の場外券売場が建設されれば、彦根市内の生活環境と教育環境のさらなる悪化が心配です。

しかし、いくら指導の徹底を図ったところで、大勢のギャンブラーを集める限り限界があります。今でも不審者が出没し、危ない事件が続出しているのです。この上、場外舟券車券売場を建設し、一年中、毎日のように彦根駅前から名神彦根インターにかけての広い地域に大勢のギャンブラーがたむろするようになれば市内の風紀が乱れて、青少年や女性にとって深刻な事態となるおそれは十分にあります。

青少年育成協議会がギャンブル誘致！

彦根市青少年育成市民会議は「各学（地）区青少年育成協議会とのより一層の連携を図るとともに、関係機関、団体と連携し、豊かな心をはぐくむ家庭づくりや地域における青少年の健全育成や、青少年にふさわしい環境づくりなどに向け、効果的な運動を展開していく」として、「地域における青少年の健全育成」を重点活動のひとつにあげています。

ところが「鳥居本学区青少年育成協議会の岩崎国次会長」は中島前市長に対して、平成16年4月、原町自治会長、鳥居本学区

自治連合会長、鳥居本学区社会福祉協議会長、鳥居本学区体育振興会長との連名で、場外舟券車券売場の「建設及び運営につきまして貴殿の同意を賜りたく、よろしくご高配をお願いいたします」との文書を出し、「同意書」を出させています。

競輪、競艇というギャンブルが青少年の健全育成にどう役立つというのでしょうか。青少年育成協議会がギャンブル施設誘致の同意をお願いするとはあきれた話です。直ちにこの文書を撤回し、本来の青少年育成活動に取り組んでもらいたいものです。